

昨年度、本委員会は学校関係者評価の結果に基づき、次の3点を桜丘小学校へ提言した。

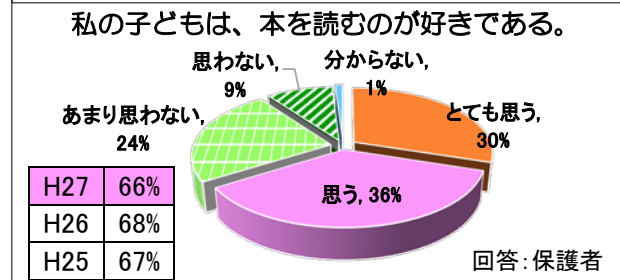
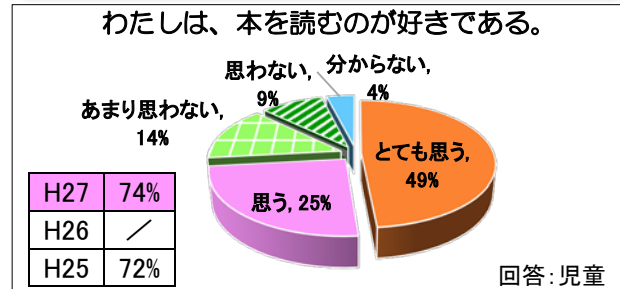
(1)「ものごとをよく考える児童の育成～読むことを通して～」
(2)「豊かな社会性・人間性の育成～人とのかかわりを通して～」
(3)「進んで運動に親しむ児童の育成」

【備考】
各円グラフ左下の表は、肯定的評価（「とても思う」＋「思う」）の推移を示す。

【学校関係者評価委員会】 ◎委員長
◎稲田 正克 地域、元目黒区立緑ヶ丘小学校校長
二川 早苗 元保護者、地域、横浜国立大学後援会会長
元世田谷区立小学校PTA連合協議会会長
菱刈 晃夫 学識経験者、国土館大学教授
松原 信行 元保護者、元PTA会長、同窓会会長
元国土館中学・高等学校保護者会会長
保護者、元PTA副会長
新BOP事務局長

【事務局】
岡安 寛 副校長
守屋 典子 主幹教諭（教務担当）
安藤 拓也 主任教諭（生活指導担当）

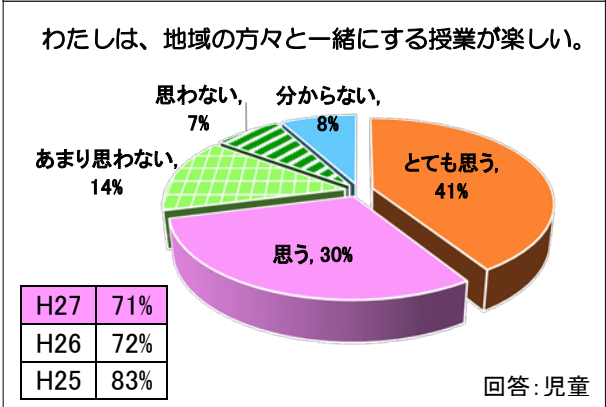
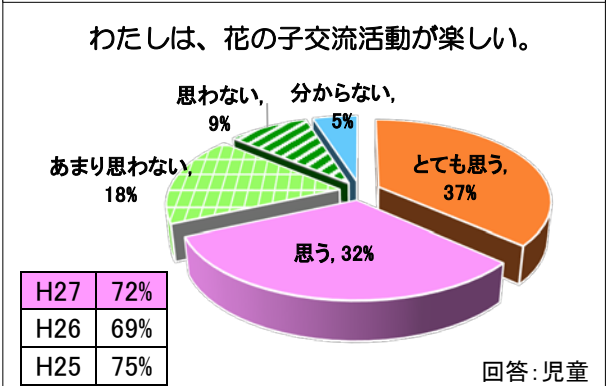
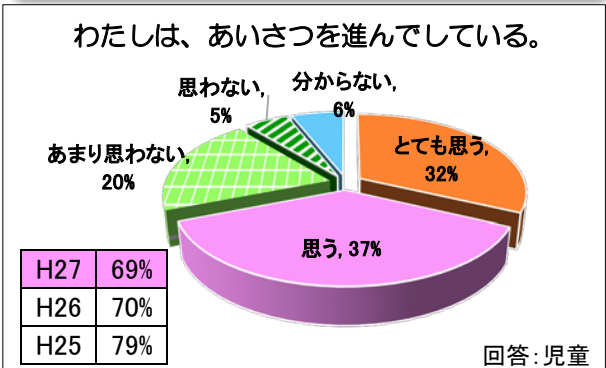
1. 「ものごとをよく考える児童の育成
～読むことを通して～」



◆肯定的評価について児童も保護者も、3年間ほとんど変化していない（児童のH26は同等と推測）。児童と保護者の回答に10%程度の開きがあることから、保護者が児童に望んでいる読書への姿勢と、児童自身が「好き」と考える読書の度合いに差があったり、家庭での読書が不足したりしていると思われる。

◆教員は、言語活動を取り入れたり、考える時間を確保して自分の言葉でまとめる活動を重視したりした。その結果、自分の考えを表現できるようになり、校内研究の取組から個→全体→個と授業時間に見通しをもって児童が授業に臨めるようになったと一定の評価をしている。一方で、読み聞かせ活動を多様化させたり、読書月間等の取組を工夫したりしたものの、読書活動に主体的に取り組むように促す機会が少なかったと、肯定的な評価は76%にとどまっている。

2. 「豊かな社会性・人間性の育成
～人とのかかわりを通して～」

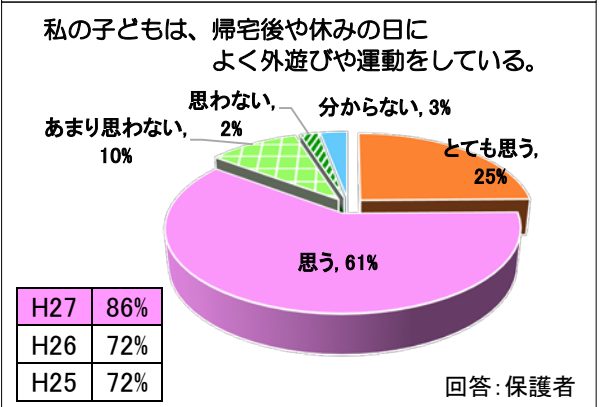
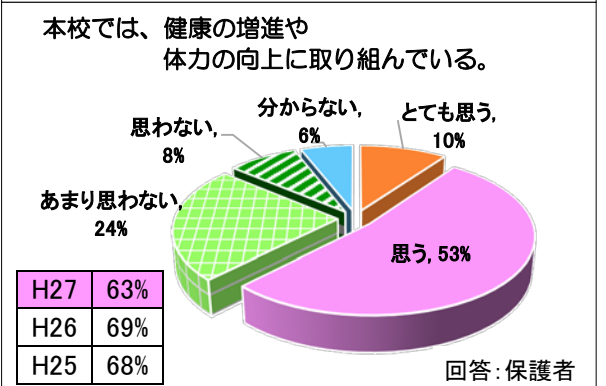
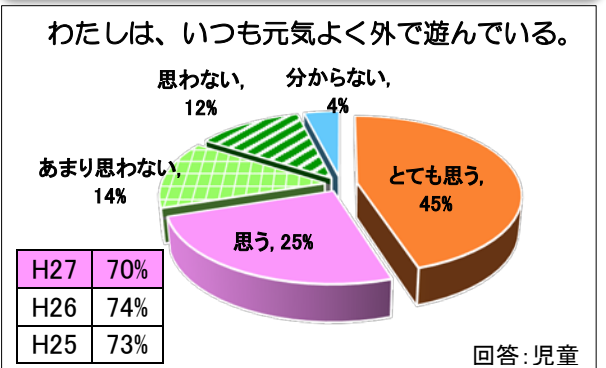


◆児童の自発的な挨拶への肯定的評価は、児童69%、保護者74%、地域57%といずれも目標の8割に達しなかった。また、保護者の「私も子どもたちによく挨拶している」の項目について、肯定的な評価が約20%も下がっている。

◆花の子交流活動に関する肯定的評価は72%と、目標の8割に達しなかった。中学年ではほぼ8割に達していることから、高学年にとつての下級生との交流について課題が残る。

◆地域と連携した授業に関する肯定的評価は71%と、目標の8割に達しなかった。一方で、「本校の教育活動に積極的にいかかわってほしい」の設問に、地域の9割の方々肯定的な回答をしている。教員は、地域の方々積極的に交流ができたが高評価をしている。

3. 「進んで運動に親しむ児童の育成」



◆外遊びへの肯定的評価は、児童70%、保護者69%と、いずれも目標の8割に達しなかったが、帰宅後は86%に上がっている。家庭と学校が同じ方々を向いて児童を育てている成果である。

◆学期に2回程度のロング昼休みや「花の子体力づくり」として毎学期行っている運動（1学期：リズムダンス、2学期：縄跳び、3学期：持久走）が児童の意欲の向上に繋がり、教員の87%が「児童が進んで運動に親しんでいた」と評価している。

◆「健やかな身体」の育成には、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」や、小学校1年生から毎年実施する体力テストの結果を記した「体力手帳9」を活用したり、取組内容を積極的に発信したりするなど、家庭や地域との連携が必要である。

4. 次年度に向けての提言

平成28年度も、「世田谷区教育要領」に基づいた教育課程の編成や質の高い授業を通して、「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成することが重要である。そのためには、学校だけでなく、保護者、地域との連携を図り、協力して教育活動を推進していかなければならない。そこで、本委員会は、次の3点の提言を行う。

（1）ものごとをよく考える児童の育成
～読むことを通して～

- ◆現存の読書推進に関する取組を継続するとともに、朝読書については、週内の決められた時間を必ず確保して実施してほしい。また、45分間の図書の時間の確保が難しい場合でも、図書の貸出・返却の時間を設けるなど工夫してほしい。
- ◆児童同士が本を紹介する機会を増やしたり、ボランティアの方が紹介する本を展示したりして、児童が本に出会う機会を増やしてほしい。
- ◆家庭における読書が大切であることを改めて保護者に周知して、協力を要請していきたい。
- ◆学校関係者評価（児童・保護者）の項目「授業で学んだことを使って考えている」について、引き続き調査してほしい。
- ◆校内研究「学び舎で実現するインクルーシブ教育～特別支援教育の視点を生かした学習指導で、すべての子どもたちの学力を伸ばす～」において、授業の改善、環境の整備、ICTの活用の観点から、児童がものごとをよく考えられるようにしてほしい。

（2）豊かな社会性・人間性の育成
～人とのかかわりを通して～

- ◆挨拶については、学年に応じた挨拶の取組や個人での振り返りも実施してほしい。
- ◆学校協議会での話し合いなど、学校と家庭・地域とが連携して機会を設け、挨拶を通して人と関わることの重要性を、具体的な生活の場面において児童に実感させてほしい。
- ◆異学年交流の場である「花の子交流活動」では、高学年の自尊感情の向上を図ったり、下級生との交流を通して責任を果たす喜びを感じられるように活動を工夫したりしてほしい。また、異学年の児童がかかわり合う機会を増やしてほしい。
- ◆学年毎に「地域とかかわる授業」への肯定的評価や取組状況が異なることを踏まえ、年間指導計画への位置付けを明確にし、地域の教育力を生かす授業をさらに推進してほしい。

（3）進んで運動に親しむ児童の育成

- ◆「休み時間の遊びのきまり」を改めて周知して外遊びやクラス遊びの活性化を図ったり、児童への声掛けやポスターの掲示、縄跳びカードを用いた検定等の啓発活動を行って多様な運動を体験させたりしてほしい。
- ◆運動に対する意識の個人差があるので、どの児童も体を動かす楽しさを実感できるように、授業や休み時間を利用し、「花の子体力づくり」と関連させるなど、年間を通して工夫して運動できるようにしてほしい。
- ◆心身の健康保持増進と体力向上の振り返りの場として、学期に1回実施している「特設学級活動」（1学期：歯科指導、2学期：給食指導、3学期：性に関する指導）を引き続き周知し、健康への取組の理解を促してほしい。
- ◆「心と体の元気アップ『世田谷3快プログラム～快眠・快食・快運動～』」をととして、学校・家庭・地域が協力・連携を図り、健康推進に向けた取組を充実させてほしい。